

編集後記

▼「現代宗教研究」第二十号をお届けします。かつて日蓮聖人の多くの弟子達が、いかにしたら「唱題の輪」をより広く、大きく創りあげていくことが可能であるかを模索し、苦闘し、試行してさまざまな活動態を創造してきました。その経過の上に、今日の教団の姿があることを、我々はよく知っています。

日蓮聖人七百遠忌が過ぎて四年、そして遠忌後さらに「唱題の輪」を広げるべく、共通した伝道態として、「お題目総弘通運動」が提唱されて一年が経過しようとしています。この運動のあるべき姿勢、運動の活性は、七百遠忌活動の反省、否、今日までの運動態の反省に大きな示唆があると思います。過去の運動態はいかなる歴史の流れの中にあつたか、またそれらはいかなる伝道・教化をなし得てきたか、その回顧を「宗門運動四十年の総括」として特集しました。その時々の運動形態を取り上げて、「唱題の輪」を創造してきた流れが把握できるよう、現宗研顧問の先生方に執筆して頂きました。

▼寺院実態調査として、今回は千葉県東部・西部寺院一部の現況を報告します。過疎でない地域に置かれている寺院の問題点をいくつか提示しました。また、現在、檀林跡を示す石碑し

か残っていない、養安寺檀林について知り得るところをまとめました。

▼中央教化研究会議や地域の教研会議でテーマとなった「日蓮宗と新興宗教との題目観の相違」について、長谷川所長の静岡教研会議での講演要旨を掲載し、税務署による寺院の税務調査の多く聞かれる昨今を鑑みて、宗教法人の権益、宗教法人法の認識を深めるため、中濃先生に「信教の自由と宗教法人」と題して研究発表してもらいました。

▼化学研究集会を開催して六回になり、三月に第七回が大坂にて開かれますが、明日の教化を考える多くの教師の発表と参加を期待しています。

▼情報化社会といわれ出して久しいが、今日あふれる情報によつて、いやおうなく社会の諸問題は日常生活に入りこんでいます。その社会問題に対し積極的にコメントする宗教者がいないということがよくいわれます。現宗研では、この一年諸問題に対しいかによう教化をなしようかを研究の課題としてきました。本誌には、「研究ノート」として各研究の中間報告をしました。一概に結論は出し得ませんが、どのような意見や姿勢、教化が考えられるか、取り組んでいきます。本誌に対する大方のご批判をお待ちします。

(高橋謙祐)